

2030年 まちの将来像に関する提案

○一般からの提案

「日が昇る街」
 「朝日が昇る街」
 「陽が昇る街」

理由：

柏原市は大阪の東に位置し、大阪府から見ると柏原市の山から毎日、朝日が昇ってきます。

大阪府民は、日の出を迎えるとき柏原市のほうを見ることから よいイメージにつながらないかと思いつきました。

○委員からの提案

「だから私はここに住む いのち輝き緑の映える玉手箱ー柏原市」

理由：

他市にないような雰囲気のものにしたいし、ちょっとでも記憶に残るようなものにしたい。

市民になにかを考えるきっかけになるようなメッセージ性を持たせたいし、市民からもっと柏原市の魅力を教示願いたい。住む理由には子育て・教育であったり、かんきょうであったり、仕事（経済）であったり多様なものが含まれています。

また、他市からの移住者にも問いかけたい。

玉手箱は美しいものという意味で使用しています。

そして玉手山はひとつの市のイメージシンボルかなと思い、柏原らしさにかけています。

「いのち輝き緑の映える」は違う言葉がありそうなのですが、いまはちょっと思いつかないので仮文言です。

選ばれるまち柏原

ー自然、歴史、産業、教育を活かした住みやすいまちづくりー

選ばれるまちかしわらA I（えーやん）へ

内容：

A Iに関する注釈として…毎年、市長自ら柏原ぶどうのトップセールス、昨年度のG 2 0では、柏原ワインの魅力を発信！

今夏の《オリパラ／聖火リレー》では、我・柏原市も選ばれ…70年振りの「大阪・関西万博」に向い

地域資源を生かした魅力あるまちづくり、そして近づく「A I社会への学童のP C環境整備など

A：転じて、第1位を表し、品質・内容も一級品であること。

デラウェアは、日本一と呼び声高い、カタシモワイナリーも大変有名で、畑・工場・街歩きで超人気スポット。大阪教育大・関西福祉科学大学のAクラス有名大学も隣接し、教育環境も秀逸

I：2025年度/大阪・関西万博、2025年5月3日～11月3日の会期（夢洲）予定。

I R問題賛否両論。開催テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」少子高齢化や、貧困、エネルギーなどの課題の解決を目的とし、国連のSDGsにも繋がる。

○参考：第2回柏原市総合計画審議会の検討案

未来へと みんな笑顔で 生き活きつどう 住みやすいまち 柏原

～未来へと～

計画期間の2030年以降の未来においても、環境・経済・社会の三側面において持続可能な、暮らしやすいまちをめざします。

～みんな笑顔で～

市に関係する誰もが思いやりとやさしさにあふれ、全員がまちづくりの主人公として誇りを持って笑顔で暮らせるまちを目指します。

～生き活きつどう～

魅力的な自然環境や自転車産業、ぶどう産業などを活かし、市内、市外の両方から多くの人が集い、交流の生まれるまちを目指します。

～住みやすいまち～

いまあるまちの魅力や環境の良さを活かして、様々な世代や生活環境の変化に対応した、便利で快適な住みやすいまちを目指します。